

1. 巻 頭 言



長崎大学長 福 見 秀 雄

現代は情報時代であると言われます。いろいろの情報が社会の中で発生し、流れ、相交错して渦巻きます。情報の性質も種に雑多で、虚実さまざまであります。一犬虚を吠えて萬犬実を伝えるかと思ふと、過剰情報の中に埋れてその中で虚脱して途方にくれることもあります。社会は其中で動き、人々は其中で生活して行かねばなりません。

情報およびその処理の重要性はいまや社会生活、集団生活の中では動かし難いものになってゐます。情報を分別、選択し、処理し、必要な情報を迅速に伝達すること、さう言ふ情報処理の能率化、それが社会の進歩発展に直接つながり、又、それがその社会の進歩発展のバロメーターにもなつてゐると思はれます。

嘗つて私自身は我が国の伝染病の防疫対策に多少関與したことがあります。伝染病の防疫行政はその初期の段階では警察行政の形で始まつたやうです。伝染病情報の戸別聞き込みです。それが次第に科学的な情報集収とテレックス等による迅速な情報の伝達、コンピュータによる情報処理へと進展し、そしてその防疫行政の中心となる厚生省（最初は内務省）防疫課はいまでは保健情報課と名稱も変更されてゐます。まさに情報時代の一つの反映であります。

情報を征するものは時代を征する。さう言ふことも言へるかもしれません。

幸ひにも長崎大学にも情報処理センターが開設され、ユニークな運営を続けながら、学内、学外との情報の伝達、交換に活躍し、情報処理に能率的な活動を續けてをります。私、まだ着任したばかりであります。その話を聞き、その実情を見て、誠に心強く感じてをります。特に情報処理に関する学生の教育、あるひは講習会、市民公開講座の開催など時宜を得た催しを行ひ、情報処理センター・ユーザ会の発足など、活潑な活動の行はれてゐるのは誠に同慶のいたりであります。

今後ますますの進展を期して学長の挨拶とします。